



受付第03A0413号
受付日：平成15年 5月12日

品質性能試験報告書

依頼者 株式会社 タナカ 住宅資材事業部

代表取締役 田 中 司 郎 様

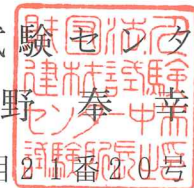
茨城県新治郡新治村大畑702-1

試験名称 枠組壁工法用接合金物の性能試験

標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

平成15年 6月30日

財団法人 建材試験
中央試験所長 勝 野
埼玉県草加市稲荷5丁目



品質性能試験報告書

試験名称	枠組壁工法用接合金物の性能試験						
依頼者	株式会社タナカ住宅資材事業部						
試験項目	引張						
試験体 (依頼者 提出資料)	<p>1. 接合金物 商品名：ビス止めホールダウンU25kN用 用途：柱脚に使用する接合金物（アンカー型） 形状・寸法：幅40mm，長さ245mm，厚さ6mmの鋼板添え板にU形に折り曲げた厚さ4.5mmの鋼板を溶接したもの（図-3参照） 材質：SPHC（JIS G 3131） 表面処理：ダクロタイズド処理</p> <p>2. 接合具 木ねじ：TB-65，10-φ5.5×65mm（ねじ部の長さ53mm），谷の径；3.2mm ねじ山のピッチ；3.2mm，ねじ先の形状；とがり先，材質；SWCH 22K（JIS G 3539） 表面処理；ダクロタイズド処理 アンカーボルト：M16六角ボルト，材質；SS400（JIS G 3101） 表面処理；Ep-Fe/Zn 5/CM2 C（JIS H 8610及びJIS H 8625） 丸ワッシャー：外径32mm，内径17mm，厚さ2.8mm，材質；SPHC，表面処理；Ep-Fe/Zn 5/CM2 C</p> <p>3. 使用枠組材 たて枠：JAS規格の枠組壁工法構造用製材，樹種；S-P-F，区分；甲種，等級；2級，寸法形式；204D 含水率；10.4～11.7%，密度；0.45～0.54g/cm³</p> <p>4. 試験体数：7体（うち1体は予備試験体） 参照：図-1～図-4（試験体の形状・寸法）</p>						
試験方法	<p>「2002年 枠組壁工法建築物構造計算指針」（監修／国土交通省住宅局建築指導課・木造住宅振興室，発行／社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第V編「材料および接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の1.2.3「接合部の基準許容応力および基準終局耐力並びに基準剛性（繰返し加力接合部試験によるもの）」に準じて行った。その詳細を表-1に示す。</p>						
試験結果	試験体		試験許容応力時		試験終局耐力	終局変位	試験剛性
	記号	番号	(Py)kN	(δy)mm	(Pu)kN	(δu)mm	(K)kN/cm
	24BHU25	0	35.3	7.8	51.0	23.3	45.3
		1	33.5	8.5	50.1	30.0	39.4
		2	35.5	9.4	51.0	30.0	37.8
		3	30.7	6.5	50.2	30.0	47.2
		4	40.5	9.5	52.0	21.9	42.6
		5	34.4	8.1	49.8	30.0	42.5
		6	32.0	9.1	46.2	27.2	35.2
	平均		34.4	8.5	49.9	28.2	40.8
標準偏差s		3.43	1.13	1.97	3.28	4.23	
5%下限値		26.4	-	45.3	-	-	
基準値		基準許容応力 17.6		基準終局耐力 45.3		基準剛性 40.8	
<p>(注) 基準許容応力は試験許容応力の5%下限値に2/3を乗じた値であり，基準終局耐力は試験終局耐力の5%下限値である。また，基準剛性は試験剛性の平均値である。 参照：表-2 (2/3Pmax時，最大荷重時及び破壊状況)，図-5 (荷重-変位包絡線の比較) 図-6 (荷重-変位曲線，包絡線及び完全弾塑性モデル)，写真-1～写真-6 (破壊状況)</p>							
試験期間	平成15年 5月12日 ～ 13日						
担当者	構造グループ 試験監督者 橋本 敏 男 試験責任者 高橋 大 祐 試験実施者 室 星 啓 和						
試験場所	中央試験所						